

株主メモ	
事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	1月31日、7月31日(中間配当を行う場合)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL 0120-094-777(通話料無料)
公告掲載方法	電子公告によりホームページ(https://www.artner.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

- (ご注意)
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

外部からの表彰・評価	
日興アイ・アール株式会社 2025年度全上場企業 ホームページ充実度ランキング ●総合ランキング「最優秀サイト」 ●業種別ランキング「最優秀サイト」 大和インバスター・リレーションズ株式会社 大和インターネット IR表彰 2025 ●「最優秀賞」 ●サステナビリティ部門「優秀賞」 マイナビ・日経 2027年卒大学生 就職企業人気ランキング ●業種別ランキング (人材サービス(派遣・紹介)3位)	株式会社ブロードバンドセキュリティ Gomez IRサイト ランキング2025 ●総合ランキング「優秀企業」 「金賞」(4位) ●業種別ランキング (サービス業1位) Gomez ESG サイト ランキング2026 ●総合ランキング「優秀企業」

株式会社 アルトナー

東京本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-5-5 住友不動産新横浜ビル5F
大阪本社 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-18 住友中之島ビル2F

Webコンテンツのご紹介

[https:// www.artner.co.jp/](https://www.artner.co.jp/)

アルトナー

検索

Home

投資家情報 (Home▶投資家情報)

エンジニアインタビュー等
動画ならではの当社情報を配信中！

<https://www.youtube.com/> より

アルトナー公式

検索

『アルトナーメール配信』サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた方に、当社の最新情報を、Eメールにて配信いたします(無料)。下記URLまたはQRコードからWebサイトにアクセスしてご登録ください。

QRコードから
アクセス→



<https://www.artner.co.jp/ir/other/mail/>



65 | 2Q | IR

株式会社 アルトナー

証券コード：2163

第65期 IRレポート【第2四半期(中間期)】

2026年2月1日～2026年7月31日

特集：AIのスキルアップに挑むエンジニア対談
グループ連携で描く成長戦略

Make Value

Engineer Support Company

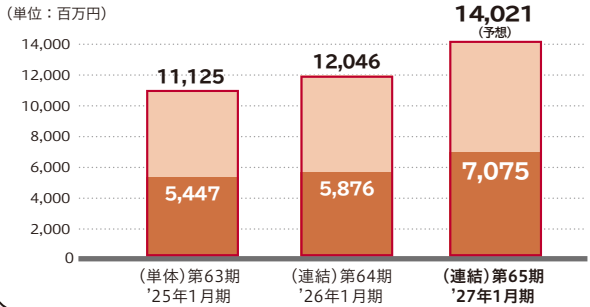


※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。
また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

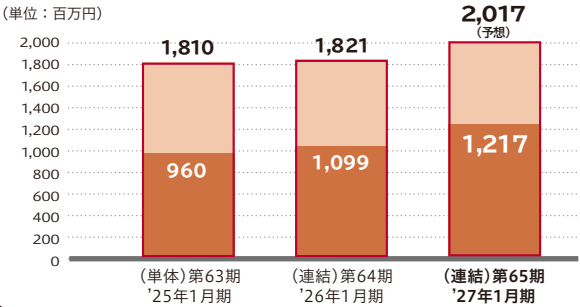
第65期 2027年1月期 第2四半期(中間期) 連結業績 ハイライト

通期 第2四半期(中間期)

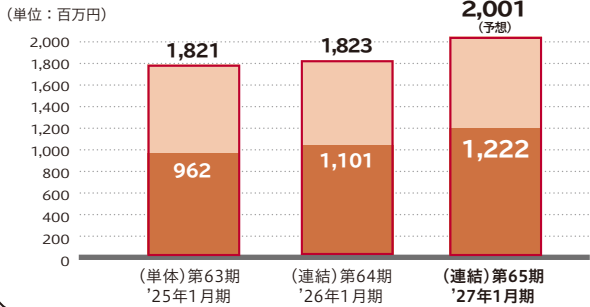
売上高 7,075 百万円



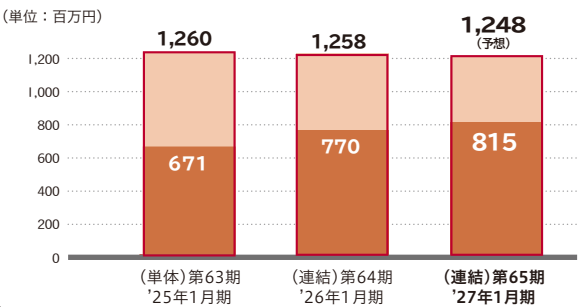
営業利益 1,217 百万円



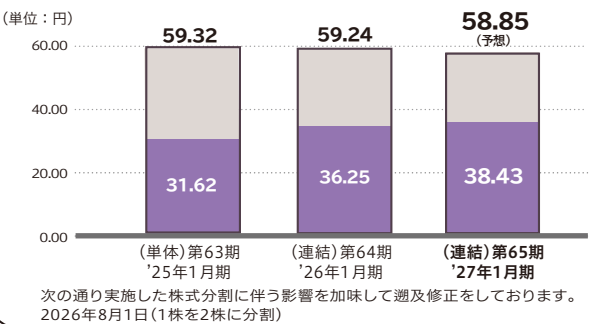
経常利益 1,222 百万円



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 815 百万円

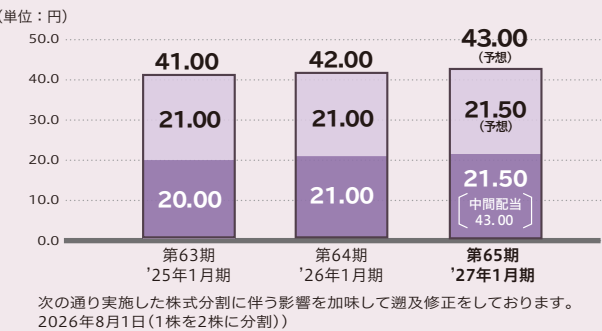


1株当たり中間(当期)純利益(EPS)



配当金

年間 中間 期末



Message from Our President and CEO

自動車関連メーカーの戦略転換に着実に対応する中、半導体製造装置メーカーの開発活発化を背景に、第2四半期(中間期)の業績が順調に進捗。13期にわたる増収・営業増益に向け前進してまいります。

第65期 2027年1月期 第2四半期(中間期)の業績、第65期 2027年1月期の業績予想、グループ会社戦略、中長期的な市場イメージ等についてご説明させていただきます。



代表取締役社長

関口相三

第65期 2027年1月期 第2四半期(中間期)の市場環境

自動車関連メーカーの戦略転換に着実に対応。AI・データセンター需要の拡大を受けて半導体製造装置メーカーからの技術者要請は堅調に推移。

この度の令和8年熊本地震により被災された皆様並びにそのご家族・関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
自動車関連メーカーにおいては、EV戦略の見直しやハイブリッド車への再投資が進むなど、技術面・経営面の双方で戦略の転換点を迎えているものと見受けられます。また、生成AIを始めとするAIの普及に伴い、大量のデータを高速で学習・処理する高性能半導体の需要が高まっております。

加えて、データセンターの新設・増設を背景に、大容量のデータを記憶し、高速に処理・伝送するためのインフラ需要も拡大しております。こうした半導体需要の拡大を受けて、半導体メーカーの設備投資が増加し、半導体製造装置メーカーにおける設計開発も活発化しております。その結果、当該分野における技術者要請は堅調に推移しております。

第65期 2027年1月期 第2四半期(中間期)の業績概要

技術者単価の上昇と稼働人員の増加に加え、重点投資によりキャリア採用が伸長。半導体製造装置を含む精密機器分野が拡大。

第2四半期(中間期)は、前年に引き続き技術者単価の上昇に加え、稼働人員が増加しました。また、重点的

経営指標に関する詳細は(Home ▶ 投資家情報 ▶ 業績・財務情報 ▶ 主な経営指標)を参照

な費用投下により、キャリア採用数が伸びいたしました。業種別では、半導体製造装置メーカーを含む精密機器の分野が拡大しました。

これらを踏まえ、売上高は7,075百万円、営業利益は1,217百万円、経常利益は1,222百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は815百万円となりました。

第65期 2027年1月期の業績予想

下期の市場環境に大きなマイナス要因は想定せず、既存技術者の配属は安定的に推移する見通し。

下期の市場環境につきましては、上期に顕在化した自動車関連メーカーの開発領域の変化が、大きなマイナス要因となる可能性は低いものと見ております。

技術者の配属につきましても、上期に順調に進捗した新卒技術者の動向を引き続き注視する必要があるものの、既存技術者の配属は安定的に推移する見通しです。



これらを踏まえ、第65期の通期連結業績の見通しは、売上高は14,021百万円、営業利益は2,017百万円、経常利益は2,001百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,248百万円を見込んでおります。

グループ会社戦略

業務提携・グループ会社のシナジー創出を本格化。AI・IT領域に強みを持つ企業とのグループ化・アライアンスも選択肢に。

業務提携先及びグループ会社との連携につきましては、現状の把握と分析を進めている段階であり、今後、シナジーの創出に向けた取り組みを本格化させてまいります。

外部との連携により必要な機能や技術を早期に取り込むことは、当社の競争力強化に向けた重要な課題であると認識しております。こうした観点から、将来的には、AI・IT領域に強みを持つ企業とのグループ化やアライアンスも、選択肢になるものと考えております。

中長期的な市場イメージ

フィジカルAIへの取り組みが本格化し、組み込みソフトウェア人財の需要が拡大。

機械メーカーにおいては、フィジカルAI(現実世界で自律的に判断・動作するAI)が重要なテーマとなっており、産業用ロボットや製造装置の分野を中心に、各社の取り組みが本格化しております。

フィジカルAIの実装においては、センサーや制御などのハードウェアと連携する組み込みソフトウェアが重要

な役割を担います。各社では、これらの技術を支える人材の確保が重要な課題となっております。組み込みソフトウェアは、当社が長年にわたり強みを培ってきた分野であり、今後の事業機会の拡大につながるものと考えております。

株主・投資家の皆様へ

13期にわたる増収・営業増益に向けて、前年割れのない安定的な配当還元を目指し、株式分割で投資しやすい環境を整備。

株主・投資家の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社では、安定的な配当の実施を経営の最重要課題と位置づけ、配当性向50%をベースに、前年割れのない右肩上がりの配当額を還元していくことを基本方針としております。

併せて、2026年8月1日に株式分割により投資単位を引き下げ、株式の流動性向上と投資家層の拡大を図ることで、より多くの株主・投資家の皆様に当社株式を保有いただきやすい環境を整えました。

おかげさまで第64期まで12期にわたる増収・営業増益を達成しており、第65期も堅調に推移しております。第65期の中間配当は43.00円となりました。期末配当は21.50円(株式分割前換算43.00円)を予定しております(株式分割前換算では合計86.00円となり、普通配当において実質**2.00円増配**)。今後とも、皆様の継続的なご理解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



市場のホットなテーマのアルトナーへの影響

Q 中東地域の緊張状態の長期化に伴う業績への影響について

A 現時点で当社の事業環境に大きな影響は生じておりません。顧客企業から技術者の要請を抑制する動きも見受けられず、設計開発分野の需要は堅調に推移しております。引き続き、顧客企業の動きを注視してまいります。

Q 中長期的な課題と見られていた生成AIの急速な進展による事業環境への影響について

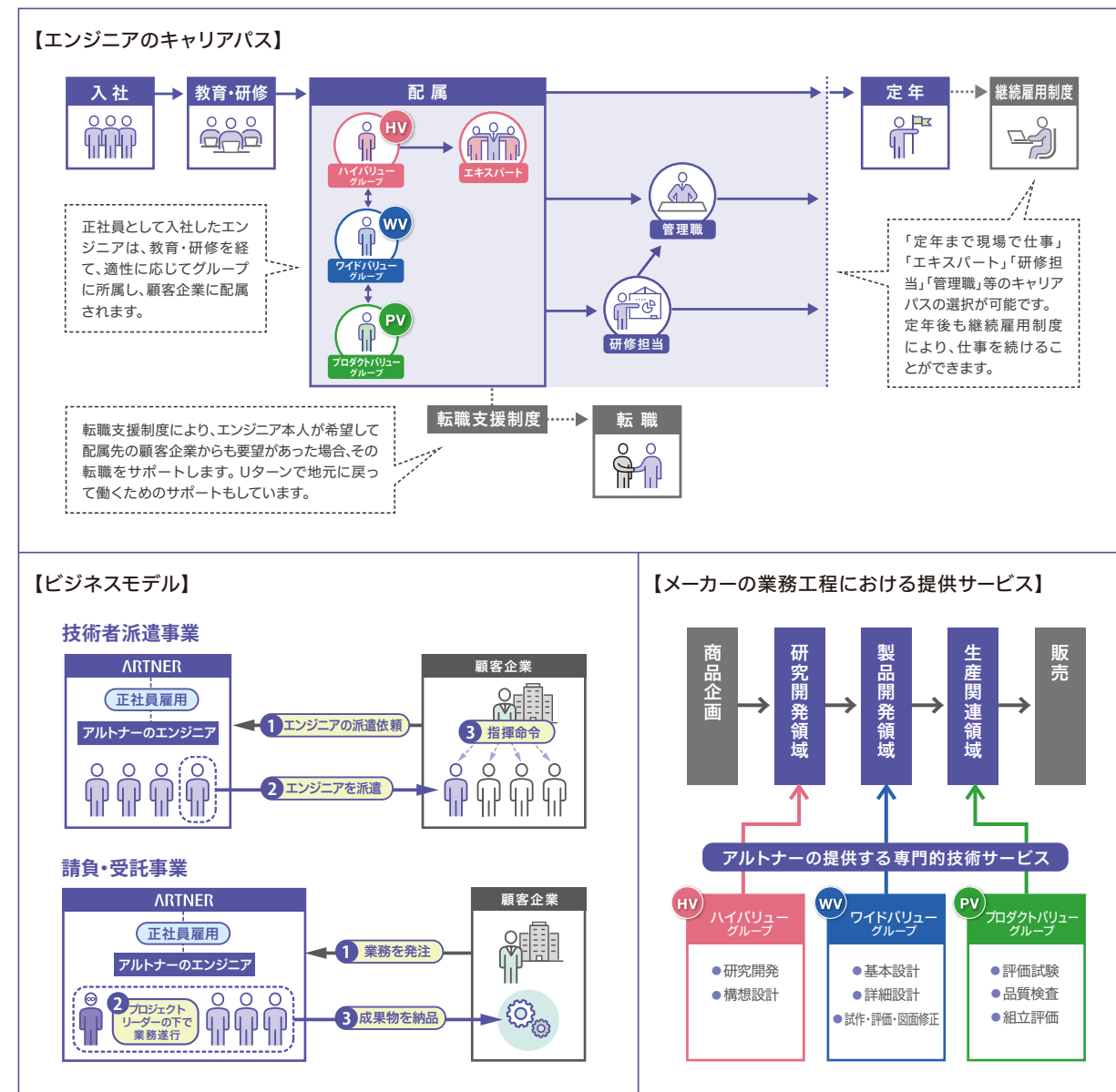
A 生成AIの急速な進展により、ソフトウェア開発では下流領域を中心に一部業務の代替が進み始めていると認識しております。しかしながら、専門技術領域における知見の重要性はこれまでと変わらず、今後はこれに加えて生成AIを自在に活用する力が求められると考えております。当社としても、エンジニアの業務に応じた生成AIスキルの習得を推進してまいります。

Q 生成AIを始めとするAIの普及に伴うデータセンターの需要拡大による事業環境への影響について

A AIの普及を背景に、データセンターの新設・増設が世界的に加速しております。データセンターは大量の電力を消費するため、電力、蓄電池、配線等といった関連領域への投資が拡大しており、これらを手がける企業から、技術者要請が増加しております。

キャリアパス & ビジネスモデル

技術開発の強力なパートナーとして、多様なニーズにお応えいたします。



アルトナーニュース

当社の最近の取り組みや出来事の中から、皆様にお伝えしたい話題をピックアップしてご紹介いたします。

当社エンジニアの専門性と挑戦を伝える 3つの特設サイトを開設しました。

当社の成長を支えるのは、変化する開発ニーズに応えるエンジニアの技術力です。領域を超えた開発やIT、AIの活用への考え方や人材育成、エンジニアのインタビュー動画を3つの特設サイトで発信してまいります。

ハイエンド領域で活躍する エンジニア

ソフトウェア、電気・電子、機械のいずれかの専門技術領域に加え、研修や業務経験、自己学習で別の技術領域のスキルを身につけ、技術サービスを提供するエンジニアを紹介します。



<https://www.artner.co.jp/high-end/>



IT エンジニア

製品と、それを制御する高度なソフトウェアの両面からITを捉え、組み込みやネットワークの資格に裏打ちされた専門知識を現場の課題に結びつけるITエンジニアを紹介します。



<https://www.artner.co.jp/it-engineer/>



AI のスキルアップに挑む エンジニア

用途に応じたAIの使い分けで実装時間を短縮し、設計や技術検討により多くの時間を充てるエンジニアの実践と、AI関連の研修や能力開発セミナーによる習得の機会を紹介します。



<https://www.artner.co.jp/ai-engineer/>



令和8年熊本地震における被災地への支援について

この度の令和8年熊本地震により被災・避難された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当社は、令和8年熊本地震災害義援金として、日本赤十字社を通じて寄付を実施いたしました。被災された地域の皆様に、謹んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

特集①

AIのスキルアップに挑むエンジニア対談

AIをどう使いこなし、自らのスキルをどう磨くのか。
AIを活用しながら成長を続ける2人のエンジニアが
仕事の変化とこれから求められる力について語ります。

「ARTNER Magazine」

エンジニアやスタッフへのインタビュー
をWebサイトに掲載しております。
Home ▶ARTNER Magazine



AIの活用で変わる、業務と時間の使い方



Q.業務では、AIをどのように活用していますか。

T：お客様から許可されている範囲で、複数のAIを
用途に応じて使い分けています。コードの実装や設
計、技術調査、デバッグにはClaudeを使い、
Microsoft製品のドキュメントを扱う際にはCopilot
を活用しています。

W：私は、ClaudeやGitHub Copilotをコードの実装・
修正、設計書の作成、説明資料の下書きなどに活用



ハイバリュウグループ
ソフトウェア エキスパート
T.N.
2016年 新卒入社

しています。特に、コー
ドや資料の初期案を作る
際に役立っています。

Q. AIの活用により、仕事 はどう変わりましたか？

W：初期案を効率よく作
成できるようになり、私
の感覚では作業負担が半
分以上軽減されました。
手戻りも減り、レビュー

や技術的な検討に時間を
充てられるようになって
います。

T：技術調査やサンプル
コードの作成、実装方法
の検討、ドキュメント作
成などにかかる時間は、
感覚として約70%削減さ
れました。特に、コード
の実装時間が大幅に短く

なっています。その分、設計や技術的な検討に、より
多くの時間を充てられるようになりました。

Q. AIの活用が進む中で、エンジニアにはどのような 力が求められると思いますか？

W：構想設計や仕様検討といった上流工程の重要性
が、今後さらに高まると感じています。製品に搭載
する機能についてAIに尋ねれば、一般的な案を得る
ことはできます。何をつくるのか、どのような価値
を提供するのかを考えることが、AIを活用するエン
ジニアには一層求められると思います。

T：AIが普及するほど、エンジニアの役割は「実装す
る人」から「設計・判断・責任を担う人」へ移っていく
と考えます。コーディングは高い精度でAIが行えま
すが、何をつくるべきかを決める要件定義や、システ
ム全体の構造を考えるアーキテクチャ設計は、今もエ
ンジニアの力が大きく求められる領域です。



ハイバリュウグループ
ソフトウェア エキスパート補佐
W.S.
2021年 新卒入社

特集②

グループ連携で描く成長戦略

当社は持続的成長に向け、自社のストロングポイント・ウィークポイントを
相互に補完・補強できるパートナーとして、(有)クリップソフトと(株)情報技研をグループ会社化いたしました。
両社との連携により、対応できる技術領域と拠点ネットワークを広げてまいります。



参画で広がるキャリアの選択肢

当社が大切にしているのは、優秀な人財の確保と定着
です。その鍵を握るのが「採用地と勤務地の一致」とい
う戦略。横浜・大阪・名古屋・宇都宮・福岡に拠点ネット
ワークを展開する中、クリップソフトの参画により新たに
「静岡・浜松」という選択肢が加わりました。地元で
働きたいというニーズに応えることは、学生や求職者に
とって新たなキャリアの選択肢となるとともに、地域
に根ざした人財確保にもつながります。クリップソフト
は、浜松本社と静岡事業所の2拠点で、請負プロジェク
トを連携して進めています。

詳細はYouTubeに公開している動画をご覧ください。

「アルトナーグループ戦略 |
静岡・浜松でのソフトウェア領域の強化
(クリップソフト)」



人財育成が支える技術力とサービス

情報技研では、当社と同じく、新入社員に対する技術
スキルの向上に加え、社会人としての教養や心構えを
習得するヒューマンスキル研修にも力を入れています。
入社から現場配属までの約4か月間で技術の基礎とビ
ジネスマナーをしっかりと身につけ、お客様から頼り
にされる技術者へと成長できる体制を整備。配属後も、
年次やキャリア段階に応じた研修や、CATIA・専門知
識・PCスキルを学ぶテーマ別研修などのレベルアップ
研修を実施し、技術者一人一人の継続的な成長を支え
ています。

詳細はYouTubeに公開している動画をご覧ください。

「アルトナーグループ戦略 |
機械系ハードウェア領域の強化
(情報技研)」



要約中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)		(単位：百万円)
科 目	第64期 前連結会計年度 2026年1月31日	第65期 当中間連結会計期間 2026年7月31日
資産の部		
流動資産	6,654	6,514
固定資産	2,403	2,248
有形固定資産	93	101
無形固定資産	1,642	1,565
投資その他の資産	666	581
資産合計	9,058	8,762
負債の部		
流動負債	1,873	1,668
固定負債	1,961	1,574
負債合計	3,835	3,243
純資産の部		
株主資本	5,073	5,392
資本金	238	238
資本剰余金	168	168
利益剰余金	4,667	5,036
自己株式	△1	△51
その他の包括利益累計額	149	127
その他有価証券評価差額金	0	0
退職給付に係る調整累計額	148	126
純資産合計	5,223	5,519
負債純資産合計	9,058	8,762

ポイント① 中間連結貸借対照表

- ①総資産は、売掛金の増加があったものの、現金及び預金の減少により、前連結会計年度末に比べ295百万円減少。
- ②負債は、役員退職慰勞引当金及び未払金の減少により、前連結会計年度末に比べ91百万円減少。
- ③純資産は、利益剰余金の増加により、前連結会計年度末に比べ296百万円増加。

ポイント② 中間連結損益計算書

- ①技術者派遣事業にて、重点的な費用投下に伴うキャリア採用数の伸長等により技術者数が増加したことに加え、技術者ニーズの上昇基調を受けて稼働率が高水準で推移したことにより、稼働人員が増加。企業の賃上げ傾向、技術者不足に加え、成長分野・高付加価値分野への戦略的配属により、技術者単価が前期から継続的に上昇。請負・受託事業にて、受注プロジェクトへの配属者数が増加し、売上高が増加。これらの結果、売上高は7,075百万円。
- ②利益面においては、採用関連投資、IT・DX投資、研修設備投資等が発生したものの、売上高の伸長によりこれらの費用が吸収され、各利益が増加。これらの結果、営業利益は1,217百万円、経常利益は1,222百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は815百万円。

※本文及び図表中の金額は、百万円未満を切り捨てているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

また、構成比(%)は、小数点第二位で四捨五入しているため、内訳の比率の合計が100.0%にならない場合があります。

中間連結損益計算書(要旨)		(単位：百万円)
科 目	第65期 当中間連結会計期間 2026年2月1日から 2026年7月31日まで	
売上高	7,075	ポイント②-A
売上原価	4,261	
売上総利益	2,813	
販売費及び一般管理費	1,596	
営業利益	1,217	ポイント②-B
営業外収益	17	
営業外費用	12	
経常利益	1,222	ポイント②-B
特別損失	12	
税金等調整前中間純利益	1,209	
法人税、住民税及び事業税	369	
法人税等調整額	25	
親会社株主に帰属する中間純利益	815	ポイント②-B

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)		(単位：百万円)
科 目		第65期 当中間連結会計期間 2026年2月1日から 2026年7月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	148	ポイント
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2	ポイント
財務活動によるキャッシュ・フロー	△548	ポイント
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△402	ポイント
現金及び現金同等物の期首残高	4,725	
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,322	

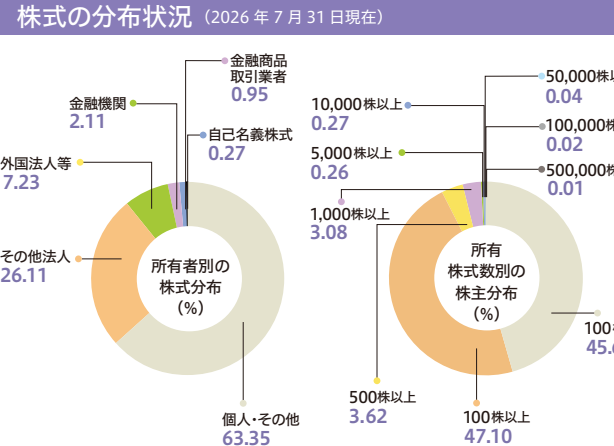
ポイント③ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

- ①当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ402百万円減少。
- ②営業活動CFは、役員退職慰勞引当金の減少、法人税等の支払、売上債権の増加があったものの、税金等調整前中間純利益により、148百万円のプラス。
- ③投資活動CFは、投資有価証券の売却による収入があったものの、無形固定資産の取得による支出により、2百万円のマイナス。
- ④財務活動CFは、配当金の支払により、548百万円のマイナス。

会社・株式情報

会社概要 (2026年7月31日現在)			
名 称	株式会社アルトナー	研修拠点(LC)	東日本／西日本
設 立	1962年 9月18日(昭和37年 9月18日)	事業内容	1)ソフトウェア 2)電気・電子 3)機械 上記分野の基礎研究、設計開発、 及び開発技術等の周辺業務
代 表 者	代表取締役社長 関口 相三	従業員数	連結：1,753人／単体：1,599人
株 式	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:2163)	許可番号	労働者派遣事業(派27-020513) 有料職業紹介事業(27-ユ-020355)
資 本 金	2億3,828万4,320円	グループ会社	有限会社クリップソフト／株式会社情報技研
本 社	東京／大阪		
事業拠点	横浜／大阪／宇都宮／名古屋		

役員一覧 (2026年7月31日現在)	
代表取締役社長	関口 相三
常 務 取 締 役	張替 朋則
取 締 役	奥坂 一也
取締役(常勤監査等委員)	野村 龍一郎
取締役(監査等委員)	寺村 泰彦
取締役(監査等委員)	森井 眞一郎



株式の状況 (2026年7月31日現在)	
発行可能株式総数	36,000,000 株
発行済株式数	10,627,920 株
流通株式数	74,765単位
株主数	26,334人

大株主の状況 (2026年7月31日現在)		
氏名または名称	所有株式数(株)	割合(%) ※
株式会社関口興業社	2,126,000	20.05
アルトナー従業員持株会	819,648	7.73
大阪中小企業投資育成株式会社	480,000	4.52
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	232,207	2.19
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	150,000	1.41
張替 朋則	140,840	1.32
奥坂 一也	115,380	1.08
上田八木短資株式会社	101,000	0.95
出雲 宏行	88,000	0.83
野村信託銀行株式会社(投信口)	75,000	0.70
計	4,328,075	40.83

※発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合